



### 3. 事務事業の評価【CHECK】

#### [1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	参加者や住民主体の通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進することにより介護予防が行われ、介護予防サービスの充実につながる。
②税金を使って達成する目的ですか。(市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	介護保険法に基づき、市が実施する事業である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。(他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	超高齢社会において高齢者人口は増加傾向にあり、要支援・要介護となる年齢を引き上げるために、介護予防の取組は重要である。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	介護保険法に定められているため、廃止できない。

#### [2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価 **B**

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	参加者の運動機能の向上もみとめられ、介護予防に関する知識の普及や啓発が、一定行えている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。(事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	地域での介護予防に関する自主グループの育成・継続支援を進める。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

#### [3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価 **B**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。(業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	地域での介護予防に関する自主グループの育成により、介護予防に携わる多様な人材や自主運営の場の確保と活用が必要。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。(歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	介護予防教室の実費に係る分は、受益者負担としている。

### 4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	総合評価の解説
総合評価	<b>B</b>	介護予防に関する知識の普及や啓発は一定行えているが、地域による介護予防の一層の推進が重要となってくると思われるので、住民主体の通いの場の充実等の働きかけが必要である。	<b>A: 現状のまま事業を進めることが適当</b> <b>B: 事業の進め方に改善が必要</b> <b>C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要</b> <b>D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要</b>

### 5. 改革、改善案【ACTION】

#### <今後の方向性>

<b>ア</b>	<b>ア. 現状のまま継続</b> <b>イ. 見直しのうえで継続</b> <b>ウ. 終了</b> <b>エ. 休止</b> <b>オ. 廃止</b> ↓      ↓      ↓      ↓      ↓ ( ___ 年まで)      ( ___ 年から)      ( ___ 年から)
<b>イ</b>	<b>&lt;今後の展開方針&gt;</b> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	地域における介護予防の充実をはかるために、介護予防ボランティアやサポーター等の育成により、介護予防に携わる多様な人材の発掘・確保及び活用。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	地域づくりによる介護予防が重要であるため、高齢者が成果を実感できる目標設定や高齢者がより主体的に介護予防活動に取り組めるよう、高齢者自身の役割の普及や啓発を、効果的な介護予防教室や自主グループへの講習会等を実施していく。